

アデランス

<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>

笑顔のために

これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

アデランス

第4版



笑顔あふれる心豊かな社会へ

株式会社アデランスは、CSR(企業の社会的責任)という言葉が広く浸透する前から、様々な社会貢献活動を実施して参りました。例えば、病気やケガ・火傷などで髪を失ったお子さまをサポートすべく、ウィッグをプレゼントする「愛のチャリティ」活動を40年以上継続しております。また、お客様の笑顔の為に、「最高の商品」を開発すべく、産学連携での研究開発の活動、芸術文化に貢献すべく、ミュージカルや芸能分野への技術協力など、積極的に実施しております。これら以外にも、環境問題を考え、植樹活動などへの参画や患者さまのQOL向上を目的とした病院内ヘアサロンの展開を行っております。今後も私たちは常に社会課題に向き合い、CSR活動を社員一丸となって取り組んでまいります。

株式会社アデランス
代表取締役会長
ファウンダー
(創業者)



根本信男



株式会社アデランス
代表取締役社長
グループCEO

津村佳宏

INDEX

- **社会・地域貢献** 2
40年以上続く「愛のチャリティ」
NPO法人JHD&Cへのサポート
大阪大学との寄附講座
大学との産学連携
- **お客様の安心・安全** 4
病院内ヘアサロン・ネットワークの拡大
医療用ウィッグのJIS規格化
- **環境への取り組み** 5
「フォンテーヌの森」植樹活動は支援地を拡大
新毛材開発で持続可能な社会を目指す
- **学術・文化活動** 6
ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団
人毛の良さを活かした人工毛髪を開発を目指して
- **海外での取り組み** 7
オリンピック金メダリストへのウィッグ提供
自身の経験から生まれた財団「Stichting Nu Jij」
Pay It Forward/Hair Club For Kids
米国乳がん研究協会への寄付
タイの病院へのウィッグ寄贈/環境保護活動
台湾のがん患者さまのQOLを支援
- **新たな動き** 10
ラジオ・大学講義によるCSR活動の発信
地球規模の課題に取り組む「朝日地球会議」への協力

■ 社会・地域貢献

子どもたちの笑顔と 出会うために。 活動の輪が 広がっています



40年以上続く「愛のチャリティ」

創業10年を機に1978年から継続的に実施している「愛のチャリティ」は、「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガで髪を失ったお子さまにウィッグをプレゼントする活動です。2012年にはクリスマス限定のキャンペーンを、通年チャリティに変更しました。また、これまではオーダーメイド・ウィッグのみでしたが、2014年からは少しでも早くウィッグをプレゼントできるようレディメイド・ウィッグの提供も開始しました。



NPO法人JHD&Cへのサポート

18歳以下の子どもたちに寄付毛100%で作ったメディカル・ウィッグを完全無償提供しているJHD&C※の活動に賛同し、2015年よりウィッグの採寸場所として、全国のアデランスサロンの個室を提供しています。2016年にはウィッグの製作協力を開始し、2018年8月には売上の一部がウィッグ製作に役立てられる支援自動販売機を本社等に設置しました。更に10月より病院内ヘアサロン全店舗とアニーダブレー福岡けやき通りが賛同美容室に登録され、ヘアドネーション希望者のヘアカットが可能となりました。

※NPO法人JHD&C(ジャーダック/代表理事:渡辺貴一氏)は、髪の毛の寄付を受け、子供たちにウィッグを無償提供している団体。



リーディングカンパニーとして パートナーと連携し、 毛髪の未来を見据えた 研究を続けていきます



乾特任教授

大阪大学との寄附講座

薄毛で悩む人々へ新たな解決策を提供することを目指し、2006年4月より「皮膚・毛髪再生医学研究寄附講座」を大阪大学大学院医学系研究科に開設しています。担当の乾重樹特任教授は、AGA(男性型脱毛症)に対しウィッグが心理的QOL(やる気、積極性・自信、プライドおよび全般)の向上に影響を与えることを世界で初めて発表しました。また、赤色LEDが毛髪の成長にどのような影響を及ぼすか科学的に解明するため、日々研究を行っています。



北野学長(右から2番目)
猪股教授(右端)

大学との産学連携

大分大学と「抗癌剤投与による脱毛の予防研究」に関する共同研究を行っています。大分大学医学部 消化器・小児外科学講座の猪股雅史教授は、新規 α リポ酸誘導体を用いて抗癌剤の副作用である脱毛の予防について研究しています。また、健康状態の記憶媒体である毛髪を用いた未来型健康診断法を追求する毛髪診断コンソーシアムに当社も参画しています。毛髪を活用した簡単で速い検診システムの実現を目指します。

世界に広がる 病院内ヘアサロン。 患者さまに寄り添い ご来店しやすい 空間を目指します



こもれび 静岡県立静岡がんセンター店



移動式理美容椅子

病院内ヘアサロン・ネットワークの拡大

2002年より、抗がん剤治療などを受けている患者さまが気軽に脱毛ケアやウィッグの相談ができるよう、全国の病院内に順次バリアフリーの理美容室を開設。車椅子に乗ったままカットやシャンプーができる移動式理美容椅子を導入した店舗は、現在31店舗に達しました。ヨーロッパでもこうした取り組みは広がり、8店舗に到達。世界中で、より多くの患者さまが安心してご来店いただける環境を提供していきます。

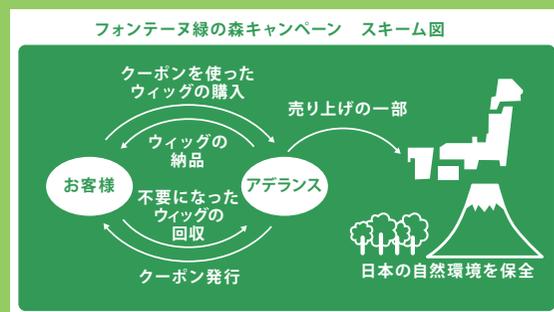
医療用ウィッグのJIS*規格化

2013年より国家規格である医療用ウィッグのJIS規格化を進めている、日本毛髪工業協同組合を全面的にサポートしています。2015年4月20日に世界初の医療用ウィッグのJIS規格(JIS S 9623)が公示されたのち、当社は7月2日に医療用ウィッグ全20製品の自己適合宣言を行い、日本毛髪工業協同組合が認証する「Med・ウィッグマーク」の使用が許諾されました。JIS規格化により、保険適用や医療費控除などの公的助成への取り組みが大きく進むきっかけとなりました。



*JISとは、工業標準化法に基づく日本工業規格(JIS)という国家規格のことを指します。

持続可能な社会を目指して アデランスにしかできない取り組みで 日本の未来に貢献します



「フォンテーヌの森」植樹活動は支援地を拡大

2009年から始まった「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」は、ウィッグの回収と植樹を繋ぐキャンペーンです。不要ウィッグの回収時に、クーポン券を発行。券を利用して新たなウィッグを購入すると、売上の一部が植樹活動への寄付に充てられます。本活動は山梨県の山林から始まり、累計1200本以上の植樹実績を残しています。2017年より東日本大震災の津波到達地点に桜を植樹する団体、2019年からは静岡県とタッグを組み、活動の幅を広げています。



新毛材開発で持続可能な社会を目指す

2018年9月、構造タンパク質素材の産業化に取り組むSpiber※と新しい毛材の研究に着手しました。既存の化繊毛は、石油が原料です。今後100年を見据え、枯渇資源に依存しない新たな選択肢となる毛髪素材研究の必要性を感じ、人毛でも、化繊毛でもない、新たな毛材の開発をしていきます。新毛材は、染色しやすく、退色しづらい特長があり、染色剤が少量で済むため、コスト削減・環境負荷低減が期待できます。1日も早い商品化を目指し、同じ志を持ったSpiberと研究を継続していきます。

※Spiber株式会社(スパイバー/取締役兼代表執行役:関山和秀氏)は、持続可能な次世代の基幹材料として期待されるタンパク質素材の産業化を目指し、設立されたスタートアップ企業。

「不可能」を「可能」に。 お客さまにとって 最高の商品であるために 試行錯誤に 終わりはありません

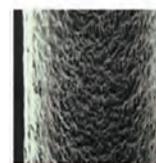


撮影者:堀 勝志古



ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団

文化芸能部門・スタジオADは、1983年に日本初演を迎えた劇団四季のミュージカル『キャッツ』をきっかけに結成。当時、激しいダンスや汗などに耐えられるウィッグは少なく、日本では「不可能」だと思われていましたが、試行錯誤・改良を重ね「可能」としました。『キャッツ』成功を機に、現在では映画やドラマ、コンサート等様々な場面で採用いただいています。デザイン性だけでなく、使用するキャストに寄り添った質の高いウィッグを提供していきます。



サイバーヘア



バイタルヘア ナチュラルヘア

人毛の良さを活かした人工毛髪の 開発を目指して

毛髪の安定調達及び社会的課題の観点から1983年より人工毛髪の研究を開始しました。1991年には人毛の感触や風合い、人工毛髪の強度や扱いやすさを兼ね備えた「サイバーヘア」を商品化。2006年には鞘と芯の二層構造でより人毛に類似した「バイタルヘア」を商品化しました。紡糸工学およびプラスチック加工における世界的権威である東京工業大学物質理工学院 材料系の鞠谷雄士教授との研究により、人工毛髪のクオリティを更に高めていきます。

自身の経験から 世界の人々に勇気を。 欧州で活躍する インフルエンサーの活動



オリンピック金メダリストへのウィッグ提供

アデランスUK社は、ロンドン(2012)、リオデジャネイロ(2016)で金メダルを獲得した元英国自転車競技のジョアンナ・ロウセル氏にウィッグを提供しています。10代の頃から脱毛症に悩んでいた彼女はウィッグを愛用しており、オリンピックでもウィッグを着用して、セレモニーに登場されました。彼女は自身の結婚式で、アデランスUK社がプレゼントした新しいウィッグを着用。その様子が人気雑誌「Hello」に取り上げられ、大きな話題となりました。これをきっかけに現在はウィッグアンバサダーとして活躍いただいています。



自身の経験から生まれた財団「Stichting Nu Jij」

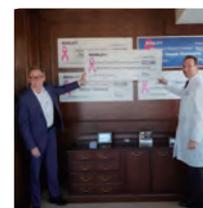
アデランス・ベネルクス社のレニー・ヴァン・ズンダートさんはフランシー・ヘーブティック店の店長であり、がん経験者でもあります。自身の経験から、「Stichting Nu Jij」というがん患者さまと家族を支援する財団を2012年に設立し、社員と共に活動しており、ベネルクス社としても支援しています。週末にマラソンや美しい景色を巡るツアーが企画され、18歳から40歳の患者さま120名が好きなイベントに参加しています。音楽を聴きながら皆で盛り上がる光景も見られ、患者さまの笑顔が溢れています。

キーワードは“社員参加型” 社員のモチベーションアップに CSR活動が 活かされています



Pay It Forward / Hair Club For Kids

ヘアクラブ社では、映画「ペイ・フォワード 可能の王国」に感銘を受け、“厚意の輪を広げる”活動を2015年より開始。「Pay It Forward」は、慈善活動を通じて社員が地域社会に貢献することをサポートし、推奨するために作られたボランティアプログラムです。受けた厚意を相手に返すのではなく、周りの人に感謝の気持ちを広げていくことをテーマにしています。また、1995年から20年以上続く「Hair Club For Kids」は、6歳から17歳の髪に悩む子供たちにウィッグをプレゼントする活動です。



米国乳がん研究協会への寄付

ボズレー社では、年に1回米国乳がん研究協会へ一定金額の寄付を実施しています。2015年より取り組みに対する社員のモチベーションを高めるため、内容の見直しを図りました。これまでの一定金額から、ピンクリボン月間である10月の売上に応じて、その一部を寄付する方法に変更。期間中、社内はピンクリボンを象徴するピンク色に彩られたり、パソコン上に現状の寄付金額を表示したりと社員の意識が高まるような工夫を施しています。

患者さまの 笑顔のために、 ウィッグを通じて サポートして いきます



タイの病院へのウィッグ寄贈／環境保護活動

タイに生産工場をもつ縁から、アデランス・タイ社では2012年より良質な試作ウィッグを現地病院に寄贈しています。以前は、十分で使用いただける試作ウィッグを税制の関係で破棄せざるを得ませんでしたが、寄贈できる環境に整備しました。2017年にはワールド・クオリティ社も寄贈に加わり、7年間で贈呈したウィッグは2,000枚以上になりました。また、ウィッグ製作時に生じる廃材はリサイクルし、その収益で植樹活動を実施。一部の廃材は、退職する社員へ贈る花束になっています。



台湾のがん患者さまのQOLを支援

アデランス台湾社では、2012年より社員の技術力アップを目的に、障害者施設での無料カットを実施しています。高雄市から始まった活動は、現在は活動のエリアを基隆市にまで広がっています。また、2017年より台湾の病院へウィッグや医療用帽子の寄贈を開始しました。いずれもサンプルとして店舗内に展示してあったものです。2018年には寄贈病院を拡大するなど、寄贈した商品は無償レンタル用とし患者さまの笑顔のために活用いただいています。

新たなCSR活動の 取り組みは たくさんの人に 広がっています



ラジオ・大学講義によるCSR活動の発信

自社の強みを活かしたCSR活動を外部に発信しています。2015年より東日本大震災に関連したコミュニティラジオ番組「KIZUNA Station」で当社の東北エリアにおけるCSR活動を紹介しています。2018年からは月2回ラジオを通じて当社のCSRを発信しており、リスナーより心温まるコメントをいただいています。また当社のCSR活動は外部から高い評価をいただいております。毎年様々な大学でCSR講義を実施しています。2016年には英国のレスター大学でCSR講義を実施し、日本企業として初めて3年連続CSR講義を行いました。



地球規模の課題に取り組む「朝日地球会議」への協力

2018年より「朝日地球会議(主催:朝日新聞社)」への協力を開始しました。2018年は「次世代への約束 もっと寛容な社会に」をテーマに、環境問題やSDGsなど地球規模の課題に取り組む国内外の専門家や省庁、企業・NPO団体等と議論を行いました。当社は、「身近な取り組みが『笑顔』とともにグローバルな広がりへ」と題し、アピアランスケアの重要性や4つの象徴的なCSR活動について特別講演を行いました。朝日地球会議への協力を機に、アデランスのSDGsに対応した価値創造型CSRを深化させていきます。